花鳥風月・短歌

ライバルがいるからいつも頑張れる

5勝6敗悔しさバネに

徳永　誠一

霜の朝悴む指に息を吐き

少しばかりの野菜摘み採る

佐伯　定則

桜色ずんぐりむっくり指先の

四半世紀ぶりマニキュアしたよ

石井　トシ子

人の世の憂きこと多く聴く身にも

大地はやさしつばめ帰り来ぬ見ゆ

鴻上　弥生

ひとときの春を待ちいる花々も
美を競いつつ至福によいて

塗塀　良子

咲きほこる満開の梅鶯の
鳴く声聞きたく耳かた向け

一色　ノブ